



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

【子どもの居場所】 活動場所移転のお知らせ

一昨年は新型コロナウイルス(COVID-19)感染症のため小中学校は春休みまでの臨時休校となり、さらに5月まで延長されるという異常事態が始まりました。緊急事態の中、「子どもの居場所」は、体温チェック、マスク着用、手洗い励行、空気清浄機設置などの感染防止対策をとり、子どもたちとスタッフが互いに注意しながら通常どおりの開所を続けてきました。ウイルス蔓延は続き、もうすぐ2年が過ぎようとしています。

居場所オープンデー、クリスマス会、年度末イベントなどは全面休止。昨年末にやっと復活した「つくって食べよう」は、クッキーやパウンドケーキなど、メニューを「焼き物」に限定するなど、工夫して実施しています。居場所への問い合わせや相談については、「感染に気をつけて」というコメント付きで、いままでどおりの活動を続けています。

この3月で2013年4月よりお世話になった平ヶ崎の居場所から、今市郵便局前の2階建て住宅に移転することになりました。9年の長期にわたり、私たちの活動を支えてくれた大家さん一家に感謝いたします。毎年、居場所隣の畑を提供いただき、ジャガイモ植えや収穫など、たくさんの戸外活動を援助いただきました。ほんとうに、ありがとうございました。

「子どもの居場所・なんとなくのひろば」は、2005年「報徳今市振興会館」(下写真)を活動拠点としてスタートしました。会館を取り壊し、「日光歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館・日

光市市民活動支援センター」合同施設を建設する計画により、移動することになり、2013年に現在地へ。そして次年度からは新しい場所で活動を継



平ヶ崎「子どもの居場所」2022/1/25

続することになります。

移転の場所について、昨年6月頃までにいくつかの候補が見つかりました。それぞれの場所をスタッフおよび理事が見学し、検討を進め、9月の理事会で決定しました。移転先は「学びサポート」(毎週金曜日午後7~9時)の会場として、いつもお世話になっている「日光市民活動支援センター」に近い住宅です。

報徳会館から平ヶ崎への引越しは、それまで使われていた家屋に荷物を移動する作業が主でした。今回は台所周りやエアコンなど、新たに整備しなければならない設備も多く、経費の心配がありました。幸いなことに、2022年の大和証券助成金をいただくことができ、引越しを順調に進めることができそうです。

昨年暮れには、大掃除と同時に荷物の整理も行いました。これから3月にかけて、家屋の清掃と荷物の運搬を行い、今年度中の移動完了を目指します。移転作業にともない、春休み中の居場所は次のとおり、お休みさせていただきます。

3月25日(金)~4月7日(木)「子どもの居場所」お休み
新年度の居場所オープンは4月8日(金)の予定です。
みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

(なんとなくのひろば役員 および 子どもの居場所スタッフ一同)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月 第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。
(Tel: 090-3227-7079)

目次

子どもの居場所、移転のお知らせ	1
粉川日光市長と面談	2
講演会「居場所の力」レポート	3
活動報告	3
こんな本はいかがが・56	4

居場所のひとこま

玄関のつきあたりに、面談の場所になったり、のんびり過ごしたい子の居場所だったりする部屋があります。そこにいつ頃からギター、ベースやアンプなどが持ち込まれ、この頃はバンド練習のための音楽室としても活用されています。ときどき、熱のこもった演奏が聞こえてきますよ。(N)



粉川日光市長さんと面談しました 12月20日(月)

「子どもの居場所」が日光市委託事業となり、9年目が過ぎようとしています。また、「第二種社会福祉事業の相談支援事業」により、日光市の福祉事業に協力を始めて8年目となります。新たに就任された粉川市長さんにお会いして私たちの活動を紹介したいとお願いしましたところ、12月20日に面談が実現することになりました。下欄は面談時に市長さんにお渡しした説明資料です。居場所活動や相談事業の内容、資金面での苦勞についてもお伝えしました。親どうしとスタッフの交流の場として継続的に開いている「茶話会」の様子も話の中で付け加えました。

「学校以外の多様な学び、一人ひとりに合った居場所と学習環境の確保」をうたった「教育機会確保法」(2016年成立)の資料もお渡ししました。「不登校は問題行動ではない」、「いじめなどで学校に行くのがつらいときは休んでもよい」との附帯決議が付けられたこの法律は、不登校の子に「何かをしてあげる」という発想から「学びの権利を保障する」という考えへの転換を促しています。市教委が来年度に設置予定の「教育支援センター」は、相談体制の充実に加え、「子どもの学ぶ権利」の保障を基本に不登校児童生徒の求める「学び」を構想し提案する組織の構築へと一歩踏み込んでいただきたい。私たちも今までの経験をふまえ、引き続き協力していきたいとお話しました。粉川市長さんにはお忙しい中、時間をお取りいただきました。意義のある意見交換ができたのではと思います。(手塚、西尾、栗原)



■ 目的 および 事業 (通信4ページにいつも掲載している内容なので省略します)

■ なんとなくのひろばの歩み

不登校の子・保護者たちの「子どもの立場で考え、親が交流できる場所」を作ろう! という思いが結集し、フリースクール・東京シューレ、高根沢町「ひよこの家」などの見学会を経て、準備会ができた。

2004年10月 「なんとなくのひろば」設立 / 2005年2月 法人登記

この間に、今市市教育委員会との協議を行った。「報徳今市振興会館」の使用についても検討子どもたちの「学び」を保障する場である学校に通うことが困難になった子を援助したい不登校という現象にこだわらず、登校を強制されることなく、おだやかに過ごせる場をつくりたい多様な生き方を応援したい

2005年 6月 「子どもの居場所」開始 (毎週金曜日午後、有志スタッフ、予算なし) 次年度より補助金

2006年 6月 サイエンス・カフェ、子育て・親育ち勉強会 など地域での定期的なイベントを企画

2011年 3月 東日本大震災 (サイエンス・カフェを縮小し、環境研究班による放射能測定などに重点)

2011年 秋 「報徳今市振興会館」建て替え計画により、居場所の今後について市教委と協議

2012年11月 「報徳今市振興会館まつり」を企画、実施 (100人を超える参加者があった)

2012年12月 斎藤市長からの提案により、従来の「補助金」から「日光市委託事業」に転換を決定

2013年 4月 「子どもの居場所」を平ヶ崎に移転、日光市の委託事業として継続することになった

2013年 8月 不登校・発達障がいのある子の進路を考える勉強会を開催 (県内のサポート校が参加)

2014年 1月 臨時総会にて、新事業項目「⑧第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営」承認

2014年 5月 「指定特定相談支援事業・さくらそう」始動

2016年10月 栃木県特別支援教育「手をつなぐ親の会」より表彰を受ける

2016年12月 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」公布
多様な学習活動に対する個々の状況に応じた必要な支援や環境の整備・多様な教育機会の確保

2020年 ~ 新型コロナウイルスの蔓延 (感染に注意しながら通常の活動を続けている)

2020年 8月 県教委「不登校児童生徒に対する支援連絡会議」担当者が居場所訪問 「なんにわ」の活動を紹介

2021年11月 「学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会」(県教委主催)に参加

■ 「子どもの居場所」ふだんの活動

市長さんにお渡ししたリーフレットの1部

- ・毎週月～金曜日 12:30～16:30活動内容は参加者の希望や意見で決めている
- ・スタッフを交えた子どもたち同士の会話、学習支援、カードゲーム、PCやタブレットでのゲーム、楽器・バンド練習、木工(楽器作り)、アイロンビーズ、絵画、Zoomでのおしゃべり会 など
- ・コロナのため昨年から今秋までお休みしていた、料理を楽しむ【つくって食べよう!】を再開
- ・ジャガイモ畑(大家さんの協力)は今年も豊作。野外での運動、卓球など(現在は中止している)
- ・通所登録の小中学生在籍校、適応指導・若杉学級との情報交換を適時行っている
- ・スタッフ手当や施設費などについて、委託費不足分はNPO会員からの会費と寄付金で補填
- ・来年3月に引っ越し予定。転居関係費用のため、助成金申請中

■ 指定特定相談支援事業・さくらそう(2014年より計画相談を開始)

- ・相談支援専門員により、障がい者やその家族の相談に応じ、情報提供・助言などを行うとともに、障害福祉サービス提供事業計画作成・モニタリングを実施。放課後等デイサービスなども連携
- ・市役所1階社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」に栗原理事が出向(相談業務に従事)
- ・「さくらそう」での相談内容は不登校の事例もあり、「子どもの居場所」を紹介することも多い



☆ 活動日誌

- 10月29日(金) 通信「なんとなくのひろば」第65号 発行
 10月31日(日) ベリー会：月例会
 11月 2日(火) 第104回 理事会
 11月 8日(月) 茶話会(第112回)
 11月27日(土) かがやきカフェ 体験発表と演奏会に参加
 11月28日(日) ベリー会：学習会
 12月13日(月) 茶話会(第113回)
 12月19日(日) ベリー会：学習会
 12月20日(月) 発達支援相談 市教委・堀口さん来所
 12月20日(月) 粉川日光市長と面談
 12月24日(金) 2021年・居場所じまい
 12月27日(月)～28日(火) 居場所大掃除
 12月29日(水) トムソーヤ・年末イベントに参加
 1月11日(火) 2022年・居場所はじめ
 1月11日(火) 第105回 理事会

さくらそう関連の勉強会など

[2021年度・日光市相談支援専門員連絡会]

10月27日(水) 情報交換・今後の予定

11月24日(水) おうらん(グループホーム・就労継続支援B型) 見学

12月22日(水) 事業所見学振り返り、情報交換・市役所係りからの事務連絡

[2021年度・日光市障害者自立支援協議会]

10月14日(木) 第5回 事例検討会議

11月11日(木) 第6回 事例検討会議

12月 9日(木) 第7回事例検討会議

1月13日(木) 居宅介護事業所撤退について



つくて食べよう写真集

10月29日(金) ↑
クッキー焼けたよ

11月17日(水) →
ハンドミキサー
上手に使えるよう
になりました

11月19日(金)
あれ、これは ↓
グラタンだったかな？



NPO法人とちぎ教育ネットワーク＋一般社団法人栃木県若年者支援機構特別企画講演会

居場所の力 ～生きてるだけですごいだ～ 2022年1月23日(日)

神奈川県川崎市での「居場所」を30年前に開設、次々と新しい発想で活動の場を広げてこられた西野博之さん。2010年9月、居場所スタッフたちの研修のため、「フリースペース えん」を訪問し、お話を伺ったこともありました。(通信22号・2010年11月)

今回は宇都宮で行われた講演会にオンラインで参加することができました。以下は

川崎市で始められた活動の変遷や、「居場所」の経験についてのお話の中から... (太字は講演スライドの筆記メモより)

学校に行かないことも選択肢/不登校支援は中学校で終わってはいけない/「なにもしないでいる」ことの保証/支援のための「目標」はない/居たいように居られる場所/正しくない、たいして重要でもないムダ話ができる仲間や空間を大事にしている
 あ、私たちの「子どもの居場所」にとっても近いかんがえだなど思いました。/良くしようというおとなのアドバイスが子どものやる気を奪っている/もふだんから気をつけていた言葉です。/学校とフリースクールとの連携協議会・教員がフリースクールへ研修/もやっているそうです。/子どもの強いところに光をあてる/一人ひとりの背景やニーズに合わせた「多様な学び」と育ちを保障する環境づくり/ は私たちのこれからの課題でもあります。/障がいは体の内側にあるのではなく、外にある。社会の環境を変えよう/ふつう・正しさなどを求める「直線的な社会」から、「曲線的な社会」へ/ を実現するために始めた /地域の中に多様な「居場所・みんなのおうち」をつくる/ 活動の紹介で講演を終えました。不登校支援から地域の変革へ、とても興味深い内容でした。(T)

講師：西野博之さん

1986年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりにかかわる。

1991年、川崎市高津区にフリースペースたまりばを開設。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのあるひとたちとともに地域で育ちあう場を続けている。

2003年7月にオープンした川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託により公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設、その代表を務める。

2006年4月より川崎市子ども夢パークの所長に就任。早稲田大学・神奈川大学非常勤講師。

居場所利用のお願い

新型コロナウイルス感染の広がりについて、まだまだ安心できない状況が続いています。感染症の終息まで、以下の点にご注意いただき、感染に配慮した居場所利用をお願いします。

- (1) 12時30分～16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。



感染力の強い「変異ウイルス」はインフルエンザと違い、「無症状の感染者が他に感染させる場合がある」という特性を持ちます。「私は感染しているかもしれない、気付かないうちに周囲に感染を広げるかもしれない」と自覚し、人との接触を避ける行動を。

- ▼ 密な空間を避ける(互いに手の届かない位置で)
- ▼ 大声での会話、同室での食事をしない
- ▼ マスクをきちんと付ける を守りましょう。

空気清浄機を導入＋窓を開け、空気入れ替えを行っています。

特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ http://www.nantonakuno.net/



こんな本はいかが？ その 56

「ムーミン」でお馴染み トーベ・ヤンソンさんの本

今回は、「ムーミン」でお馴染みのトーベ・ヤンソンさんの本を紹介し
ます。日本のムーミン人気は、1969年のテレビアニメ「ムーミン」から始ま
ったそうです。トーベ・ヤンソンの研究者、富原真弓さんによれば、最初の
日本製アニメ「ムーミン」に対して、ヤンソンさんは違和感を感じていたら
しい、と書いています。ヤンソンさんのイメージとは違いすぎたからだそう
です。その後制作会社が替わって、原作にそった形で作品を送り出して
いますが、日本ではこの最初の「らしくないムーミン」の方が好きだとい
うアニメファンも少なくないと書かれています。

◎「少女ソフィアの夏」

トーベ・ヤンソン/作 渡部 翠/訳 講談社 1993年

「人生の扉を開けたばかりの少女ソフィアと、人生の出口にたたくむ
祖母。70も年齢の違う二人が思うまを対等に、率直にぶつけ合いなが
らも、互いにさりげなく思いやる——。」本の扉にこう紹介されていま
した。これは、トーベ・ヤンソンさんの弟さんご家族の実際の生活を下敷き
にした短編物語集です。

フィンランドでは、「ほとんどの人々が、大自然の中で生活することを一
年の最大の喜びとしている」そうです。「夏の家」と呼ばれる別荘があり、
簡素な住居とサウナ小屋があるそうです。「冬は日照時間が極端に短
く、気温も氷点下30度にも下がり、吹雪やブリザードにみまわれます。
…そして日照時間の長い白夜の夏に草花は…生を謳歌します。過酷
な冬を越して、短い夏の盛りにつかの間の命を燃やす動物や植物によ
せるトーベさんの思いは深いようです。」

この本は、フィンランドという国の自然の厳しさ、生活の仕方、人々の結
びつき方などがよく表れている短編集です。ムーミンと同様の空気感
があり、人が生きることの苦しさや自然との共存などが描かれています。祖
母と孫娘の対等なやり取りが私は好きです。図書館で手に取って見ては
いかがでしょうか。

オリジナルのムーミン絵本、ムーミン童話全集やムーミン関連書も是非
手に取ってみてください。(白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもお
よび青少年等に対して、学習や自立のため
の支援活動と地域への啓発活動を行い、社
会に出た後も継続性のある、支援と学びの
場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重
した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、
新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用し
た学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する
相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、
自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する
企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：51
賛助会員：15
団体会員：4

入会金なし
年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。
会員継続、応援をよろしく願います。会員は新たな
事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわること
ができます。
みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

なんとなくのへや

物語を読むということは、今の自分がいる環境と別のところで違った人生を経験する
ことです。何か役に立つ知識を得るとか、生きる目的を探すとか、そういうことでは
ない。読者は登場人物に導かれ、喜びや怒り、希望や失望、栄光や挫折などさまざま
な心の動きを共にする。それが読書の喜びであり本質なのだと思います■さて、こんどは何を読もうかなと新刊書の
広告や新聞の書評欄を眺めるのも楽しみのひとつ。新しい小説にも興味はあり、お正月には話題の『同志少女よ、敵
を撃て』を読んだりしていましたが、昔出会った「古典」を読み返すことも多くなりました■スウィフトの『ガリ
バー旅行記』は子どもるときとはまったく違った読み方のできるお話です。絵本やアニメでおなじみの小人国、巨人
国には貴族社会や宗教界への皮肉が満載。その次の「空飛ぶ島」には日常とはかけ離れた研究に熱中する科学者が滑稽
に描かれ、旅行記最後の「馬の国」では徳の高い馬たちとの生活のなかで、ガリバーはすっかり人間でいることが
いやになってしまいます■古典文学は遠い過去から言語の違いも乗り越え、現在の私たちに届けられる芸術です。多
様な読み方が可能で、多様な解釈を許す物語が古典として残っているのだらうと思います。いちど決めた生き方を貫
くのもひとつの生き方だけれど、この世界は不確実で不安定で、おまけに不道徳でもあります。もう少しのんびり
と、そして柔軟に生きたらどうですかと、私たちにそっと教えてくれるのが「古典」なのかもしれません。(T)